

14.5

938

共榮園資料
第六輯

彷徨へる濠洲及新西蘭

神戸商工會議所編

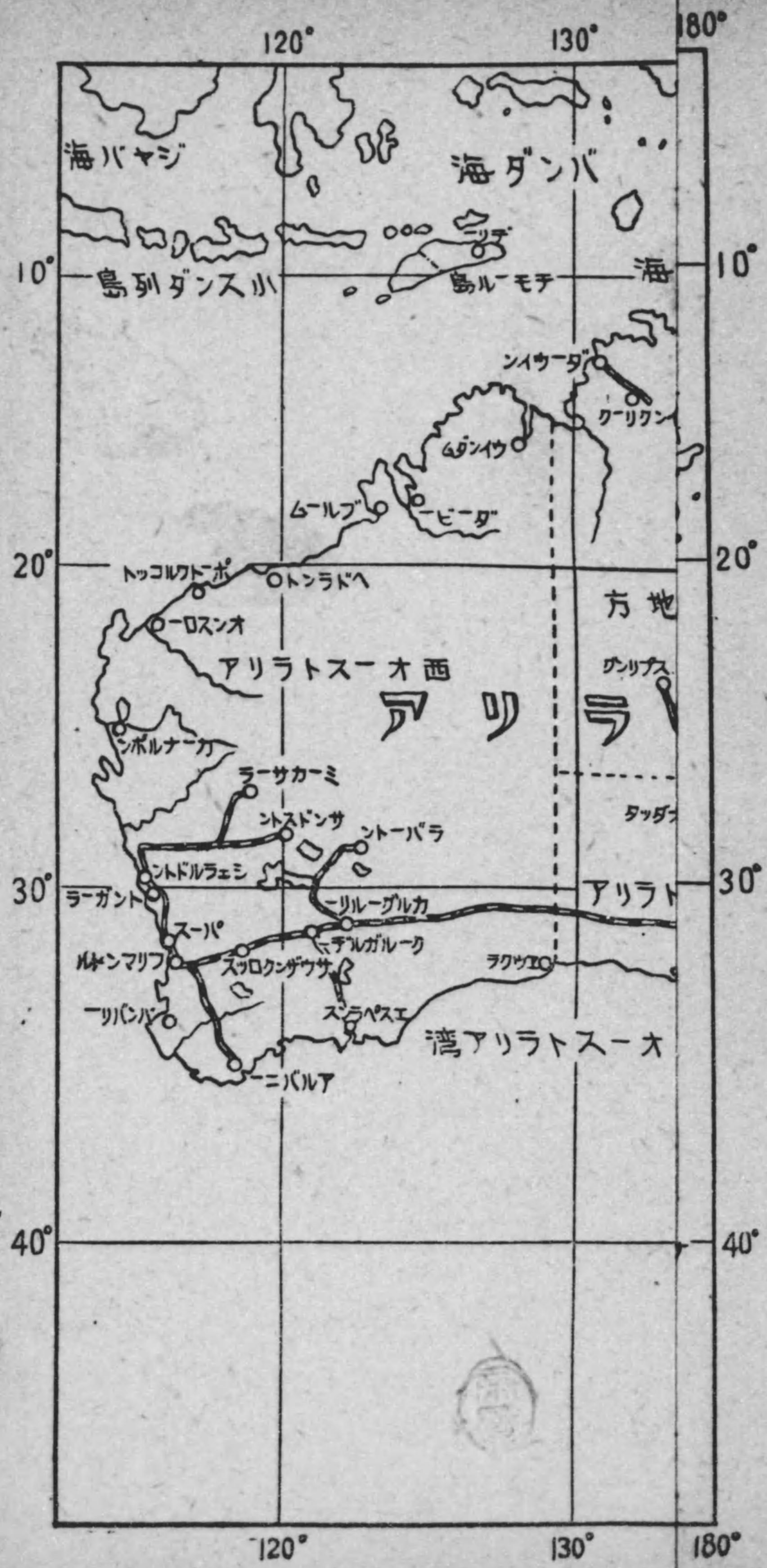
1
93

榮園資料第六輯

彷徨へる濠洲及新西蘭

昭和十七年六月

神戸商工會議所



神戸商工会議所外事課編



序

發行所寄贈本



常に白種主義を主張し、有色人種の移住を拒み、剩へ先住民族に極端なる迫害を加へて来た——
 迫害を加へたと言ふよりも、寧ろ先住民族をカンガルーの如き動物と同様に今世紀の初頭に至るま
 で「濠洲紳士」の豪快なるスポーツはカンガルー狩と先住民族狩であつた。斯る行爲は人道に斷じ
 て許すべからざる事は無論であるが、我が東亞民族の上に加へたる一種の宣戰布告であつた。
 今や我國は崇高なる目的、即ち虐げられたる十數億の有色民族を解放して、億兆人類をして天賦
 の幸福を平等に享受せしめんとするこの目的を、猥に曲解して彷徨へる羊の如く立ち返へらず、今
 尙我に戰を挑む濠洲並に新西蘭の經濟力を研究する必要を痛感したるにより、こゝに「彷徨へる濠
 洲及新西蘭」と題して小冊を公にして業者並に一般の參考に供する次第である。

本稿を草するにあたり御多忙中多大の便宜と資料の許容を賜りたる株式會社兼松商店並に其の他
 の人々に對し衷心謝意を表する次第である。

昭和十七年六月

神戸商工會議所外事課

14 5
938

濠洲聯邦

「彷徨へる濠洲及新西蘭」目次

第一章 自然及位置……………	一
(一) 面 積……………	二
(二) 氣 候……………	五
第二章 歴史及住民……………	三
(一) 歴 史……………	三
(二) 住 民……………	四
第三章 産 業……………	六
(一) 農 業……………	七
(二) 牧 畜 業……………	八
(三) 林 業……………	九



(四) 鑛業.....三〇

金—石炭—石油—銀—鉛—銅—錫—鐵

(五) 水産業.....三〇

(六) 工業.....三三

第四章 交通.....三三

(一) 陸運.....三三

(二) 海運.....三四

(三) 空輸.....三四

第五章 貿易.....三八

(一) 輸出.....四一

(二) 輸入.....四三

(三) 日濠貿易.....四三

第六章 財政及社會.....四五

(一) 貨幣及金融.....四五
(二) 文化及教育.....四九

ニュージーランド

第一章 自然及位置.....五一

(一) 面積.....五一

(二) 氣候.....五一

第二章 歴史及住民.....五二

(一) 歴史.....五二

(二) 住民.....五三

第三章 産業.....五四

(一) 農業.....五四

(二) 牧畜業	五五
(三) 林業	五六
(四) 鑛業	五七
(五) 水産業	五八
(六) 工業	五九
第四章 交通	六二
第五章 貿易	六三
第六章 財政及社會	六三
(一) 貨幣及金融	六四
(二) 社會	六五

彷徨へる濠洲及新西蘭

濠洲聯邦

第一章 自然及位置



今我が忠勇なる海の荒鷲隊が斷へず猛爆しつゝある濠洲大陸は南半球に存在し、アジア洲の南東方に臨たはり、太平洋と印度洋との間に位し、北は極北、南緯一〇度二三分(ヨーク岬)、南は極南、南緯五九度九分(ワイルソン岬)、東は極東、東經一五三度三五分(バイロン岬)、西は極西、東經一二度(スチープ岬)に互る南半球の大陸であつて、面積は約三百萬平方哩に近く我國の約二〇倍、ヨーロッパ全土の約八割に匹敵してゐる。人口は約七百萬人であつて我國の十分の一弱で東京市の人口程度である。

地形は概してアフリカ大陸に似た單調である。海岸は絶壁多く、特に東海岸及西海岸方面は山脈

は海岸に迫つてゐる關係上斷崖が多く、従つて東南部以外は良港が稀である。東北の海岸は海岸より一六呎乃至二四〇呎の沖に(Great Barrier)と稱する大堡礁の珊瑚礁が海岸に並行して防波堤の如く、蜿蜒一六〇〇呎に達してゐる。この珊瑚礁の内部は波靜なるも暗礁多く航行は不可能に近き状態である。

(一) 面積

第一表 濠洲聯邦行政區劃別面積及人口

行政區劃別 (括弧内は其の首府)	面積(平方哩)	人口(一九三三年)		合計推計人口
		男	女	
ニューサウスウェールズ州(シドニー)	三〇九,四三三	一,三三八,四七一	一,二八二,三七六	二,六〇〇,八四七
ヴィクトリア州(メルボルン)	八七,八八四	九〇三,三三三	九一七,〇一七	一,八二〇,三五一
クイーンズランド州(ブリスベン)	六〇〇,三〇〇	四九七,二七二	四五〇,三二七	九四七,五九九
南オーストラリア州(アデレード)	三〇〇,〇七〇	二九〇,九三三	二八九,九八七	五八〇,九四九
西オーストラリア州(パース)	九七五,九二〇	二二五,九七七	二〇四,九一五	四三〇,八五二
タスマニア州(ホバート)	二六,二二五	二五,〇九七	一一,五〇三	三六,五九九
ノーザンテリトリー	五三三,六二〇	三,三七八	一,四七三	四,八五一〇
キャンベラ首府地域	九四〇	四八〇五	四,一四三	八,九四七
總計	二,九四〇,六一	三,五七二,二二	三,三二七,七八	六,九〇〇,〇〇〇

備考 The Statesman's Year-Book 1940 より

濠洲聯邦の面積の詳細は第一表に示すが如く二百九十七萬四千五百八十一平方哩であつて五大陸の一つである。州別面積並に人口を見れば第一表に示す如くである。

濠洲聯邦はニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、クイーンズランド州、サウスオーストラリア州、ウエスタンオーストラリア州、及タスマニア州の六州とノーザンテリトリー及キャンベラ首府地域からなつてゐる各州の面積及人口は第一表に示す如くである。

ニューサウスウェールズ州の面積は三十萬九千四百三十二平方哩を有してゐる地形的には稍々複雑である、即ち西部地域は低地で自噴井盆地に屬し、東部地域は大體高地となつてゐる。

ヴィクトリア州の面積は八萬七千八百八十四平方哩あり地形的には三つに分ける事が出來得る、即ち東部は高地でニューサウスウェールズ州の高地と關聯し、西部は平野でマレー盆地の一部である。又南東部は低平な地帯でこれをグレートヴァレーと稱してゐる。

クイーンズランド州は面積六十七萬五百平方哩を有し、濠洲聯邦中大きに於て第二位の州である。この地域は大きく二地域に分けられ、西方は低地で大部分有壓水を保有する地層よりなる平地である。東部は山脈が多く東海岸に沿ふて幅約三二〇呎の地帯である。

サウスオーストラリア州も面積三十八萬七千平方哩を有し、北西部は大準平原の南東部に當り、南西部はユラーバー平地の一部をなし、東部は山脈、湖沼等があつて變化にとんで居る。

ウエスタンオーストラリア州は濠洲聯邦の最大州であつて、其の面積は六十七萬五千九百五十平方哩を有し、本大陸の約三分の一を占めてゐるが、北部準平原を除外すれば諸州中最も發達の遅れた州である。而し近き將來に於ける進歩は最も期待されてゐる。地形的には全體は大西濠高原に屬し、唯西部海岸に狭い低い海岸地帯がある。

タスマニア州はタスマニア島全部であり、ニューサウスウェールズ州の屬領であつたが一八二五年に分離した。面積は二萬六千二百五十五平方哩である。タスマニアの最高點レツジス峰が北東に在るが、全體としては東部よりも西部がより高峻である。西部は雨量が多く一箇年を通じて一二七〇耗又は其れ以上である。

ノザンテリトリーは五十二萬三千六百二十平方哩を有する大行政区であるが、白人の人口は約五千人餘と稱して居る。土壤の大部分は貧弱な砂質である。而し北部は雨量は適當である爲今後の開發に見るべきものはあるであらう。中濠の中心部に於て若干の部分が高原であり降雨量は大體に於

て二五四耗であつて良好なる牧地と報ぜられてゐる。この中濠の行政的中心部はアリススプリングスで最近オードウナダツタと鐵道を以て連結さるゝに至つてゐる。

(二) 氣 候

南半球に屬する大陸は北半球に屬する大陸と異つて亞寒帶氣候が全然存在してゐない。従つて濠洲大陸に於ても上記氣候がないわけである。濠洲大陸は熱帶氣候、温帶氣候及乾燥氣候の三つよりなつてゐて、熱帶氣候は北部地方であつて即ちダーウイン市方面では最高平均温度は華氏九〇度内外を一年を通じ維持し、最低温度は大體七五度内外を維持してゐる。其の他メルボーン、シドニー、ブリスバーン市地方は北半球の四季と反對に十月より三月に至る期間は氣温高く、四月より九月迄は低くして大體氣候が温順である。

次に主要都市の月別温度を見れば第二、三、四、五、六表に現れたる如くである。

濠洲主要都市月別温度表

第二表

月別	平均温度 (華氏)		日最高	日最低		兩極端 (華氏)		日照時間	平均數			
	最高平均	最低平均		最高	最低	最高	最低					
調查年數	36	36	36	36	36	34	34	35				
一月	84.6	63.2	108.4	23/21	48.6	20/25	59.8	177.3	22/14	40.4	1/21	323.0
二月	84.7	63.2	107.4	4/23	47.7	1/02	59.7	169.0	4/99	39.8	1/21	271.8
三月	81.3	61.4	106.4	14/22	45.8	8/03	60.6	167.0	19/18	36.7	8/03	269.1
四月	76.1	57.3	99.7	2/07	39.3	20/14	60.4	157.0	8/16	31.0	20/14	216.4
五月	68.8	52.6	90.4	2/07	34.3	11/14	56.1	142.2	8/24	25.3	11/14	175.7
六月	64.1	49.5	81.7	2/14	35.0	30/20	46.7	135.5	9/14	26.5	30/20	143.4
七月	62.7	47.9	76.4	21/21	34.2	7/16	42.2	132.2	13/15	25.1	30/20	163.3
八月	63.7	48.2	81.0	12/14	35.3	31/08	45.7	145.1	29/21	27.9	10/11	184.3
九月	66.2	50.2	90.9	30/18	38.8	18/00	52.1	153.6	29/16	29.2	21/16	206.4
十月	69.0	52.6	95.3	30/22	40.0	16/31	55.3	154.0	29/14	29.8	16/31	240.2
十一月	75.5	56.8	104.6	24/13	42.0	1/04	62.6	167.0	30/25	35.5	(A)	283.0
十二月	81.2	60.8	107.6	20/04	48.0	2/10	59.9	168.7	25/15	39.0	12/20	325.5
平均	73.2	55.3	108.4	28/1/21	34.2	7/7/16	74.2	177.3	22/1/14	25.1	30/7/20	2307.1 (B)

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia

第三表

アデレード

月別	平均温度 (華氏)		日最高	日最低		兩極端 (華氏)		日照時間	平均數			
	最高平均	最低平均		最高	最低	最高	最低					
調查年數	76	76	76	76	76	55	72	51				
一月	86.1	61.5	116.3	26/58	45.1	21/84	71.2	180.0	18/82	36.5	14/79	311.3
二月	86.1	62.0	113.6	12/99	45.5	23/18	68.1	170.5	10/00	35.8	23/26	263.0
三月	80.8	58.8	108.0	12/61	44.8	-/57	63.2	174.0	17/83	33.3	27/80	239.8
四月	73.3	54.6	98.0	10/66	39.6	15/59	58.4	155.0	1/83	30.2	16/17	180.8
五月	65.7	50.3	89.5	4/21	36.9	(A)	52.6	148.2	12/79	25.6	19/28	149.0
六月	60.4	46.7	76.0	23/65	32.5	27/76	43.5	138.8	18/79	22.9	12/13	123.1
七月	58.9	44.7	74.0	11/06	32.0	24/08	42.0	134.5	26/90	22.1	30/29	136.8
八月	62.0	45.9	85.0	31/11	32.3	17/59	52.7	140.0	31/92	22.8	11/29	164.3
九月	66.3	48.0	90.7	23/82	32.7	4/58	58.0	160.5	23/82	25.0	25/27	157.0
十月	72.4	51.4	102.9	21/22	36.0	-/57	66.9	162.0	30/21	27.8	(C)	227.3
十一月	78.6	55.4	113.5	21/65	40.8	2/09	72.7	166.9	20/78	31.5	2/09	214.0
十二月	83.3	59.0	114.6	29/31	43.0	(B)	71.6	175.7	7/99	32.5	4/84	302.9
平均	72.8	53.2	116.3	26/1/58	32.0	24/7/08	84.3	180.0	18/1/82	22.1	30/7/29	2547.3 (D)

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia

第四表

グリースパーン

月別	平均(華氏)		日最高	日最低		兩極(華氏)		日照時間	平均數			
	最高平均	最低平均		最高	最低	最高	最低					
調查年數	46	46	46	46	46	41	46	24				
一月	85.5	69.0	108.9	14/02	58.8	4/93	50.1	166.4	10/17	49.9	4/93	227.5
二月	84.5	68.6	105.7	21/25	58.5	23/31	47.2	165.2	6/10	49.1	22/31	205.9
三月	82.3	66.3	99.4	5/19	52.4	29/13	47.0	161.7	4/25	45.4	29/13	212.8
四月	79.0	61.6	95.2	(A)	44.4	25/25	50.8	153.8	11/16	36.7	21/25	209.8
五月	73.5	55.4	90.3	21/23	41.3	24/99	49.0	147.0	1/10	29.8	8/97	232.5
六月	69.3	51.1	88.9	19/18	36.3	29/08	52.6	136.0	3/18	25.4	23/88	177.9
七月	68.5	48.5	83.4	28/98	36.1	(B)	47.3	146.1	20/15	23.9	11/90	213.4
八月	71.3	49.9	88.5	25/28	37.4	6/87	51.1	141.9	20/17	27.1	9/99	236.7
九月	75.7	54.8	95.2	16/12	40.7	1/96	54.5	155.5	23/03	30.4	1/89	239.8
十月	79.6	59.9	101.4	18/93	43.3	3/99	58.1	157.4	31/18	34.9	8/89	235.5
十一月	82.7	64.2	106.1	18/13	48.5	2/05	57.6	162.3	7/89	38.8	1/05	217.1
十二月	85.0	67.4	105.9	26/93	56.4	13/12	49.5	161.7	27/26	49.1	3/94	217.9
平均	78.1	59.7	108.9	14/1/02	36.1	(C)	72.8	166.4	10/1/17	23.9	11/7/90	2376.8

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia

第五表

シドニー

月別	平均(華氏)		日最高	日最低		兩極(華氏)		日照時間	平均數			
	最高平均	最低平均		最高	最低	最高	最低					
調查年數	74	74	74	74	74	71	74	12+				
一月	78.4	64.9	108.5	13/96	51.2	14/65	57.3	164.3	25/15	43.7	6/25	232.3
二月	77.7	65.0	107.8	8/26	49.3	28/63	58.5	161.2	8/23	43.4	27/9	203.8
三月	75.7	62.9	102.6	3/69	48.8	14/86	53.8	158.3	10/26	39.9	17/13	196.9
四月	71.3	58.1	91.0	20/22	44.6	27/64	46.4	144.1	10/77	33.3	24/09	179.5
五月	65.5	52.2	86.0	1/19	40.2	22/59	45.8	139.7	1/96	29.3	25/17	169.1
六月	61.1	48.3	80.4	11/31	35.7	22/32	44.7	123.5	2/23	23.0	22/32	156.9
七月	59.8	45.9	78.3	22/26	35.9	12/90	42.4	124.7	19/77	21.0	4/93	191.1
八月	62.8	47.5	82.0	31/84	36.8	3/72	45.2	149.0	30/78	26.1	4/09	221.2
九月	67.0	51.4	92.3	27/19	40.8	18/64	51.5	142.2	12/78	30.1	17/05	218.7
十月	71.3	55.8	98.9	19/96	42.2	6/27	56.7	151.9	31/14	32.7	9/05	227.5
十一月	74.4	59.6	102.7	21/78	45.8	1/05	56.9	158.5	23/99	36.0	6/06	237.4
十二月	77.1	62.9	107.5	31/04	48.4	3/21	59.1	164.5	27/89	41.4	3/24	238.2
平均	70.2	56.2	108.5	13/1/96	35.7	22/6/32	72.8	164.5	27/12/89	21.0	4/7/93	23472.6

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia

月別	平均温度 (華氏)		日最高 (華氏)	最低温度 (華氏)		最高雨量 (華氏)	最低雨量 (華氏)	日照時間
	最高平均	最低平均		最高	最低			
調査年数	77	77	77	77	77	77	77	51
1月	78.1	56.7	67.4	111.2	42.0	28/85	69.2	211.4
2月	78.1	57.2	67.6	109.5	40.2	24/24	69.3	238.7
3月	74.4	54.7	64.5	105.5	37.1	17/84	68.4	204.6
4月	68.2	50.7	59.4	94.0	34.8	21/88	59.2	162.5
5月	61.5	46.8	54.1	83.7	29.9	29/16	53.8	137.5
6月	56.8	44.0	50.4	72.2	28.0	11/66	44.2	110.7
7月	55.6	41.9	48.7	69.3	27.0	21/69	42.3	130.9
8月	58.6	43.4	51.0	77.0	28.3	11/63	48.7	153.7
9月	62.7	45.6	54.2	88.6	31.1	16/08	57.5	172.1
10月	67.1	48.3	57.7	98.4	32.1	3/71	66.3	202.3
11月	71.4	51.3	61.3	105.7	36.5	2/96	69.2	234.9
12月	75.3	54.3	64.8	110.7	40.0	4/70	70.7	219.6
平均	67.3	49.6	58.4	111.2	27.0	2/17/69	84.2	1,923.9
極端	—	—	—	14/0/62	—	—	178.5	—

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia

雨量

濠洲の雨量は季節により異てゐるが、北部地方では夏期に中緯度高圧帯が南方に退き、赤道降雨帯によつて覆はれるのと季節風の影響を受けて雨量が多く、又南部地方に於ては冬季は中緯度高圧帯が北に移動するがため雨量が多くなる。南東海岸では貿易風が一年中絶えず吹くを以て、何れの季節に於ても降雨が見られるのである。東海岸及北東岸地方では最も雨量が多く、年平均一、五〇〇耗以上、南西海岸はこれに次ぎ一、〇〇〇耗乃至七五〇耗位である。中央平原より西部高原に至る地方は雨量少く一箇年の最高二五〇耗或はそれ以下であつて、時には一箇年間降雨を見ない事がある。各州別の一箇年間の雨量は第七表の如くである。

第七表 各州別一箇年間の降雨量

一箇年	平均雨量	ニューサウスウェールズ州	クイーンズランド州	南オーストラリア州	ノーザンテリトリー	西オーストラリア州	タスマニア州	合計
10吋以下	48,749	—	80,496	310,660	140,500	486,952	—	1,067,957
10—15吋	78,454	19,270	81,549	36,460	132,780	255,092	—	603,605
15—20吋	55,762	13,492	111,833	19,940	63,026	94,101	304	358,458
20—25吋	45,140	14,170	143,610	8,620	49,157	41,340	3,844	308,881
25—30吋	30,539	15,579	99,895	3,258	41,608	31,990	3,016	225,885
30—40吋	33,557	14,450	61,963	1,036	37,642	59,520	5,027	213,195
40吋以上	18,171	10,923	91,154	96	58,907	3,925	11,247	194,423
總計	310,372	87,884	670,500	380,070	523,620	975,920	23,438	2,971,804

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia.

濠洲の風は三つの主要なる風系よりなつてゐる。第一眞夏(一月)には北海岸及海岸より稍々内陸へ入つた地方では季節風が吹くが、これはカルナーヴオンとクツクタウンを結ぶ線から南の方には達しない。第二にはカルナーヴオンとクツクタウンを結ぶ線の南方に吹くのが南東貿易風で、バースとプリズベーンを結ぶ線の地方まで吹いてゐる。第三には第二の線の南方地方に吹くのが偏西風である。而し以上の風帯は季節と共に變じ、六箇月後の七月には前述の第一の季節風が消失し、二つの風系となつて現る、即ちバースとロツクハンプトンを結ぶ線を境として二つの風系が現れ、此の線以北は南東貿易風となり、其の以南は偏西風となる。

濠洲には以上の風系以外に個々の低氣壓や高氣壓が発生し、例へばオーストラリアの如きは屢々暑い、乾燥せる塵埃を含む風が内部沙漠地方より吹き出すのである。之等の風はブリック・ファイルダーと呼ばれて居る。大陸の東海岸は極暑の風に見舞れる事はあり得ない代に南方から吹く冷風を受くる事がある。之を濠洲ではサウサリー・バスターと呼んで居る。

以上の如く南オーストラリア方面に於て暑風の時はヴァイクトリアの北部地方では攝氏四九度に達

する事があり、又メルボン地方では三七度以上の温度が一週間も繼續する事がある。

第二章 歴史及住民

(一) 歴史

濠洲の發見は一五三六年に北部海岸の一部が歐洲人によつて探險された事に始まり、一六〇五年(慶長十年)には和蘭人に依つてカーペンタリヤ灣が發見され、其の翌年ウイリアム・ジャンツに依つて北岸の一部が發見された。又同年スペイン人トーレスがトーレス海峽を航行した史實がある。

其の後一六四二年に和蘭人タスマンがジャバから南方大陸を探險する目的を以て派遣され、新西蘭と今のタスマニヤを發見したが、當時は貿易のみを目的として居たので蕃人の住む無價値な所と報告した。其の後一七七〇年に英人ジェームス・クックとジョセフ・バンクスとによつて引率された科學的遠征隊が東海岸全部を發見し、土地は肥沃し先見的有望な所であると報告した事によつて今の濠洲が浮び上つて來たのである。一八一四年に探險家フリンダース氏が同大陸をオーストラリアと提唱したるによりニューホルランドの名稱が抹消されて今日に至つたのである。

一七八八年一月に英國は十一隻の船に七百人の犯罪者と二百人の海員とをキャプテン、フィリップに引率させシドニー附近の海岸平野に上陸した。これにより濠洲に於ける最初の流刑植民地は開拓されたのである。

濠洲西部地の占領はニューサウスウェールズ總督サーダーリングが一八二五年七月に西部植民地発見のため遠征軍を派遣し、一八二九年にキャプテン・フリマントルが當時ニューホランドと稱する地域を占領して、英國國旗をスワン河口に樹立し、濠洲全部を英領として歸屬させたのである。斯くして濠洲は流刑植民地より非常なる速度を以て自由植民地と代つたのである。一八二九年と一八三六年とはスワンリヴァーと南オーストラリアとが英人移民の渡來に對して自由植民地として初めて建設された。其の後メルボーン等に新植民地が出来追々と開拓されて行き、一八五五年にはニューサウスウェールズに於ては責任内閣が承認され、爾來各州が獨立して最後に西オーストラリアが一八九〇年に承認されたのである。翌年多年の懸案であるオーストラリア聯邦制がシドニーに於ける國民會議で採用されて本國議會の協賛を経てオーストラリア聯邦が生れたのである。

(二) 住 民

オーストラリア大陸には二種の原住民があつた。一は濠洲土人で他はタスマニア人であつた。前者は恐らく南アジアより移動して濠洲本土に残り今日に至れるものと思はれる。體質的特徴は捲状毛又は波状毛、膚色はチョコレート色をなし、鼻は廣く、頭は長く、身長は中位である。現在は狩獵文化の程度で、男はカンガル、エミュ、袋鼠、野鴨、鳩等をとり、女及子供は野生のヤマ芋や蟲を採集し食糧の一部をあさつて居る。この民族は乾燥暑熱に對する抵抗力は甚だ強く、現在は主として西濠洲、クインズランド、北部領土に住み、其の數五萬三千と稱せられて居る。

次にタスマニア人であるが、これ等はタスマニアが濠洲本土と陸続きの時代に移動したものと推定されて居る。彼等は古石器時代の生活をなし、冬にはカンガルの毛皮をまとふが住家なく唯だ風上に簡単な屏風を立てるのみであつた。最初の人口見積最高は二萬人であつたが、一八三一年の民族闘争後は二百人に過ぎず、一八七六年の最後の一人 *Turkani* が死亡して、この民族の社會組織、宗教等種々未知のまま絶滅してしまつたのである。

白人種の居住は前述の如くであるが、一八五〇年には四十萬内外であつた人口は翌年の金鑛発見により急激に増加し、一八五八年には百萬人となり、一八八八年には三百萬急増し、更に一九二五

年には六百萬人を示し、一昨年の推定では七百萬人となつて居る。併し人口密度は最高ビクトリヤ州の一方籽に付八・一人、最低は北部領土の〇・〇〇四人と言ふ状態で平均して〇・九人といふ事になつて居る。尙濠洲聯邦の國語は無論英語を使用し、東洋人のこの國への入國には歐洲語の書取試験に合格しなければ入國を許可しない事に成つてゐる。而し日本政府の抗議により旅行者、學生、貿易に従事する商人竝に濠洲政府の特に許可を與へられた職業、例へば眞珠貝採取等に従事する者に限り旅券を下附し、濠洲政府は日本政府の旅行券所持者に對しては、入國に際しては歐洲語の書取試験を行はない事になつて居る。

第三章 産業

濠洲は天然資源の國であつて、其の産業も殆んど農業、牧畜業、林業、鑛業、水産業及工業等であるが主として原始産業である。多くは原料生産が目的であつて、工業は極端な保護貿易主義を取つて居るので相當な發達を見て居るが、而し未だ列國の工業とは太刀打する程には達してゐない。以下は濠洲に於ける主なる産業である。

(一) 農業

農業は濠洲の最大の産業であるが、その農耕面積は僅か二千萬エーカーであつて、濠洲全土の二パーセントに過ぎないのである。これを見ても濠洲の今後の發展に期待出來得るのである。主なる農産物な小麥を筆頭に燕麥、大麥、玉蜀黍、馬鈴薯、甘蔗、甜菜、葡萄、果實等である。一九三〇年頃は農業全體としては牧畜産出額と大差を見なかつたが、最近に至りこれを凌駕した。農産物の産

出高を種類別に見れば上掲第八表に示す如くである。

濠洲の如く廣大なる面積を有しながら比較的降雨の少ない處では貯水竝灌漑は必要である。濠洲は幸に掘抜井戸地帯を若干有して居り、河川を利用してマレー盆地に於て灌漑事業を起してゐる。濠洲の農業の特徴は大農主義で機械化してゐる事である。生産地はニューサウスウェ

第八表 主要農作物 (一九三六—三七年度)

種別	耕作面積	産額
小麥	一、三三六、八六三	一、五三三、九二五
燕麥	一、五三四、八六六	一、六六六、二七九
大麥	四七〇、三三三	七、三三六、七七
玉蜀黍	三、一七七、〇	七、二四六、三八三
牧草	三、一〇〇、八七六	三、四七七、六四七
馬鈴薯	一、〇〇〇、〇〇〇	四六、一三二
甘蔗	五、五九、一〇〇	五、四四五、七四〇
甜菜	三、四七三	三、一〇九、九
葡萄	一、三三、一六五	四〇九、〇一七
果實	二、七七七、七二二	八、五、七二二、三三六

備考 世界年鑑一九四〇年、ページ九六二より

ールス、ビクトリヤ及南濠洲で七五パーセント、西濠洲で二二パーセントを産してゐる。

(二) 牧畜業

濠洲の牧畜業は特に良く、農業と並んで二大重要産業である。この國の牧牛者は廣大な牧場を持つと共に年中牧草が得らるゝので野外放牧をなし、舍飼等の必要を感じないのである。一九四一年六月三十日現在濠洲政府發表によると、頭数は一二二、〇〇〇、〇〇〇頭となつて居る。濠洲のニューサウスウェルズ、ビクトリヤ、クインズランドの三州は羊毛生産に最も適して居る。従つて濠洲の羊毛生産の大部分はこの三州によつて生産されて居る。主要羊毛生産地を州別に見れば第九表に示す如くである。

濠洲の酪農業は又目覺しいものがある。これも前述の如く牧畜業に必要な牧草及氣候が最も適して居て、野外放牧が出来得るからである。最近に至り酪農業が急激に發達し、其の生産高も

第九表 主要州別羊毛生産高

州名	單位一萬頭	單位一萬俵
ニューサウスウェルズ	五、五〇〇	一四五
クインズランド	二、四〇〇	六〇
ヴィクトリア	二、〇〇〇	八〇
南オーストラリア	一、〇三〇	三五
西オーストラリア	九五〇	二五
タスマニア	二二〇	六
計	一二、一〇〇	三五一

備考 濠洲の牧羊第三輯株式會社松商店發行より

最近五箇年の平均では四三、三〇〇萬封度に達して居る。其の主なる酪農品はバターを筆頭に卵、牛乳、ベーコン、ハム、チーズ等である。バターは總生産高の半ばを占めニューサウスウェルズ、ビクトリヤ、クインズランドの三州で九割を占めてゐる。

濠洲は他の牧畜と同様馬も産し、生育よく其の數は大體一八〇萬と稱してゐる。濠洲の馬は主として農耕用に重要されてゐる。尙牛は大體二一萬頭と稱せられてゐる。

(三) 林業

濠洲は約三百萬平方哩の尨大なる面積を有して居るが森林地帯は極めて少い國であつて、其の地域は大體二四、五〇〇、〇〇〇エーカーと稱せられて居る。この森林地帯は濠洲全土から見れば僅かに四%内外に過ぎない譯であるが、その中でも一六、二七一、六一七エーカーは永久的森林地帯として指定されて居るから、残部は大體八、三二八、〇〇〇エーカーとなつて居る。現在の重要森林地帯は南オーストラリア州とニューサウスウェルズ州である。この地域は面積は狭小なれども良材を産するが爲に世界市場にその名を認められてゐる。

濠洲の特産のユーカリ樹は成長が早い事と良質である事で知られて居る。現在は各地に於て植林

が盛んに行はれてゐる。

(四) 鑛業

濠洲は鑛物資源が豊富である。其の中でも特に金鑛は其の王者を占めて居る。金の發見により濠洲の今日の發達を見た主要原因であるといはれて居る。濠洲は現在に於ても金の產出が多く、南アフリカ聯邦、アメリカ合衆國に次いで世界の第三位の大産金國で年産一、〇〇〇萬磅から一、二〇〇萬磅程度を上下して居る。

濠洲は金以外に石炭、銀、鉛、銅、錫、鐵等があるが、石炭は最も多く年産八〇〇萬磅内外である。濠洲に於ける主要鑛物及其の產額を示せば第十表の如くである。

金

濠洲に於ける金の發掘は古くから行はれてゐたが、世の注目を引き始めたのは一八五一年のハーグレーヴス氏による金の發見からである。ハーグレーヴス氏はシドニーの西北約百哩のオフアの土砂を洗ひ金塊を發見しこれを政府に報告した。よつて政府は地質學者を送り調査したる結果公表したのである。この刺戟により探鑛作業は全國的となり、同年中に多くの主要金山を發見した。

第十表 濠洲州別鑛產額(一九三六年)
(單位磅)

州別	種別	ニュージーランド	ヴィクトリア	クワイーンズランド	南オーストラリア	西オーストラリア	タスマニア	ノーザンテリトリー	濠洲計
石炭	石炭	5,257,923	1,018,670	1,048,748	6,659,933	7,326,309	1,521,911	76,001	10,214,004
黒炭	炭	5,257,923	2,538,835	858,733		3,315,655	92,269		6,663,352
褐炭	炭		3,339,144			2,338			3,339,144
鉛鑛及積鑛	鉛	3,815,643				2,338			3,817,981
鐵鑛及積鑛	鐵	11,021		1,331	22,901				33,953
錫及錫鑛	錫	2,684,544	1,475,000			6,883	2,066,566	4,176	6,588,077
銅(塊及飯)	銅	5,368,700		1,612,688	22,609	97	5,567,344	1,872	7,968,666
銀	銀	5,143			200		1,344,133		763,866
亞鉛及精鑛	亞鉛	1,984,660	555	2,692,333	1,570		8,103,666		7,684,811
ウオルフラム	ウオルフラム	560		4,533,666			2,833,333		9,399,999
白鹽	白鹽	4,100		1,889			2,833,333		8,915,000
石灰石(熔劑)	石灰石	3,339,144		1,126,666	1,492,333		7,114,333		11,126,666
蛋石	蛋石	6,110		1,000	5,108				11,218
寶石類	寶石類	1,980		2,000	9,363				13,343
鑛產合計		10,214,004	1,663,000	3,621,111	22,901,933	7,326,309	1,521,911	76,001	27,560,000

備考 南洋鑛產資源・南洋協會發行のページ五三より

あの有名なヴィクトリア州のバラット金山及ベンヂゴ金山も一八五一年に発見されたものである。今日濠洲全土の産金額の七、八割を占める西濠洲の金鑛床発見は東部諸州に比較して十數年も遅れてゐる。即ち一八八六年に西濠洲北端キンバレー産金地を、一八八八年にビルバラ産金地及イルガレン産金地を、又一八九二年にクルルギーに豊富な金鑛床を発見した。濠洲各州に於ける最近の産金高を示せば第十一表の如くである。

第十一表 濠洲州別産金額（一九三七年）

州別	數量(オンス)	%
西オーストラリア	一、〇〇〇、六四七	七二・五
クインズランド	一二七、二八一	九・二
ヴィクトリア	一四五、七九九	一〇・六
ニューサウスウェールズ	六八、六〇七	五・〇
タスマニア	二〇、二七六	一・五
ノーザンテリトリー	一〇、五二一	〇・八
南オーストラリア	六、九六二	〇・五
計	一、三八〇、〇九三	一〇〇・〇

備考 Official Year Book, Australia, 1938, Pg. 611.

石 炭

濠洲の石炭産出地は主としてニューサウスウェールズ州の盆地、即ちシドニーを中心とするニューカッスル附近の北部炭田、ブリ附近の南部炭田及リスゴー附近の西部炭田が主要炭田である。この三炭田の北部炭田から産出する石炭は瓦斯製造用及家庭用に適し、南部及西部炭田から産する石炭は蒸氣用として特に良好である。

ある。

ニューサウスウェールズ州の出炭高の約七割は北部炭田即ちニューカッスル附近から産出され、濠洲に於ける最も重要な炭田である。

濠洲の石炭産額は一九三五年の統計によると一、三二〇萬噸、價額にして大體六七八萬磅である。尙一九三〇年の推定埋藏量を各州別に見れば第十二表に示す如くである。

尙全濠洲の褐炭を除く石炭産額を州別に見れば第十三表に示す如くである。

第十二表 濠洲推定石炭埋藏量 (單位百萬噸)

州別	黒炭	亞瀝青炭及褐炭
ニューサウスウェールズ	一三、九二九	一
ヴィクトリア	四〇	三七、〇〇〇
クインズランド	二、二三八	六七
南オーストラリア	一	五七
西オーストラリア	二四四	三、五〇〇
タスマニア	一六、四五一	一
計	一六、四五一	四〇、六二四

備考 石炭業王室委員會報告 一九二九—三〇年

石 油

濠洲に於ける石油産出額は少量であるが、最近に至り政府は油田調査を奨励し、躍起となつて石油増産に意を注いで居る。

第十三表 濠洲各州別石炭産額

州別	年度別	一九一三年	一九二一年	一九三一年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
ニューサウスウェールズ		10,441,655	10,793,367	6,432,362	7,184,377	7,873,180	8,698,579	9,994,666
ヴィクトリア		5,939,123	5,148,591	5,714,333	5,330,000	5,699,581	4,764,955	4,267,255
クイーンズランド		1,077,944	9,547,636	8,411,008	8,755,677	9,565,581	10,519,781	10,468,791
西オーストラリア		2,281,181	4,688,877	4,311,000	4,588,991	5,003,433	5,571,881	5,650,755
タスマニア		55,043	66,476	113,218	126,573	113,633	117,714	131,264
計		19,448,837	22,988,031	24,970,713	26,968,621	28,886,125	30,887,969	32,078,731

備考 南洋鐵産資源バーヂ五六八より

の生産量は一九三六年には三、七八三ガロンであつた。この外クイーンズランドに少量の産出を見て居るが、一九三一年の生産は石油ガスから約五千ガロンのガスを生産して居るに過ぎない。

銀 及 鉛

濠洲の銀は鉛と混在し、主なる産地はニューサウスウェールズ州のブローケン・ヒル及クイーンズランド州のクロンカリー地方のマウント・サイ等である。

ニューサウスウェールズ州の産出は他州の追従を許さず、断然群を抜いて居て、全濠洲の約八割を

占めて居る。ブローケン・ヒルはシドニー市を去る西方約六百哩の地點、即ち南オーストラリア州の境界線より約三十哩の沙漠に近い高原地帯にあり、銀は約二百五十哩西南の南オーストラリア州のピリー港に鐵路を通じて運搬され、ピリーに於て其の大部分が精鍊されてゐる。次にブローケン・ヒルの主要鑛山埋藏量を示せば第十四表の如くである。

第十四表 ブローケン・ヒル主要鑛山埋藏量

クイーンズランド州のマウント・イサに於て産出された一九三六年の量は三一〇萬純オンスの銀と三五、七六三噸の鉛とになつてゐる。

會社名	埋藏量(噸)
南ブローケン・ヒル	三、〇〇〇、〇〇〇
ヂンク・コオボレイション	三、三四九、〇〇〇
北ブローケン・ヒル	五、〇二一、〇〇〇
サルフワイド・コーポレイション(推定)	三、一三、〇〇〇

南オーストラリア州の銀はフランクリン・ハーバー地方のミルタリー及ブリーナとラビット灣附近のマウント・マルグーン等に發見され、一九三六年には一、五六〇純オンスの銀と一〇噸の鉛を産してゐる。西オーストラリア州は銀は金の副産物として産出され、主なる産地はノーサムプトン及ナラ・タラ等であつて、其の輸出額は一〇五、二一九オンスに達してゐる。

タスマニア州の銀の産出額は一九三六年には九〇六、四五八オンスに達し、鉛は七、五六三噸の産出を見てゐる。

ノーザンテリトリーに於ては一九三四年度の記録であるが僅に八噸と成つてゐる。尙濠洲各州の最近五箇年間の銀及鉛の産額を見れば第十五表の如くである。

第十五表 各州最近五箇年間の銀及鉛の産額

州別	年度別	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
ニューサウスウェールズ		一、五六九、三三	一、七八三、三〇七	二、一九九、八三三	三、一八九、三六八	三、八〇七、八五
ヴィクトリア		三〇八	一九八	三〇〇	六四三	五三三
クイーンズランド		七、六五、四六	七、〇八、八〇四	六、七二、三五	七、五五、八九九	八、九一、〇二
南オーストラリア		五、七二六	六、八六〇	七、一九九	二、六八七	三、五七
西オーストラリア		六、九四二	七、〇七五	四、八五〇	六、三七一	二、四〇一
タスマニア		六、九四二	七、〇七五	四、八五〇	六、三七一	二、四〇一
ノーザンテリトリー		—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—

備考 濠洲政府年鑑一九三八年による

銅

濠洲の銅は一八四二年に南オーストラリア州のアデレード附近で発見され、續いてアデレードを去る約百哩の北バラ・バラにて銅鑛石の露出を發見し今日に至つて居る。無論其の後他州に於ても多數發見されたが、オレンヂ地方が主なる鑛區であつた。最近に至りてはタスマニア州が全濠洲銅産額の七割前後を占めるに至つてゐる。

濠洲各州の銅の産出量を見れば第十六表に示す如くである。

第十六表 州別銅産出量 (一九三六年)

州別	數量(噸)	パーセント
タスマニア	一三、〇四〇	七一%
クイーンズランド	三、八二八	二二%
ニューサウスウェールズ	八一四	四%
南オーストラリア	四五一	二%
ノーザンテリトリー	一九八	一%
合計	一八、三三三	一〇〇%

備考「南洋鑛産資源」財團法人南洋協會發行のページ六二二より

濠洲の錫は一八五〇年にクラークによつてクイーンズランドのダーリングダウンスに於て始めて發見されたのを動機として、其の後タスマニア州及ニューサウスウェールズ州等に於ても追々と發見され、今日では上の第十七表に現れたる如く世界の錫産出國の一つとなつた。即ち一九三六年には産額三、四〇〇噸に達して

第十七表

世界各國別錫産出額 (一九三六年)

國別	産額(噸)
馬來(元英領)	六六、六九八
東印度(元蘭領)	三〇、七六九
ボレグイア	二四、〇九一
タイ	一二、五二六
支那	一〇、四〇〇
ニゲリア	九、七三九
白耳義コンゴ	七、三〇三
印度	四、五四七
濠洲	三、三九二
英本國	二、〇九九
佛領印度支那	一、三八一
南阿聯邦	六三四

備考 濠洲政府年鑑(一九三七年)より

る。
 濠洲に於ける主なる錫の産地はクインズランド州、ニューサウスウェールズ州及タスマニア州等であるが、主として砂鑛床から産出してゐる。今一九三二年から一九三六年迄の州別錫産出高を示せば第十八表に現れたる如くである。
 第十八表 濠洲州別錫産出高 (單位磅)

州別	年度別	一九三二年	一九三三年	一九三四年	一九三五年	一九三六年
ニューサウスウェールズ		110,122	218,244	328,130	278,640	268,454
クイーンズランド		404	1,350	3,886	12,775	12,780
タスマニア		66,174	123,610	179,404	187,334	157,889
西オーストラリア		3,295	4,557	6,765	8,829	6,889
ノーザンテリトリー(A)		10,976	19,041	29,746	35,819	20,656
合 計		191,971	386,902	544,990	560,408	466,618
噸		2,336	4,603	6,333	6,438	5,333

備考 Official Year Book of the Commonwealth of Australia No. 31 Pg. 632

濠洲には鐵床が到る處に散在して居るといはれて居るが、運輸の便のなき爲とそれを精鍊する石炭が附近に産しないため發展しなかつたが、其の後ニューサウスウェールズ州に於て精鍊所が出来、今日では精鍊は以上のニューサウスウェールズ州而已に限られてゐる。併し各州の鐵鑛埋藏量は相當な量に達して居ると稱せられてゐる。今各

州の鑛量の發表を見れば第十九表の如くである。

濠洲の鐵鑛資源の最も豊富な所は南オーストラリア州のアイヤン・ノツプと西オーストラリア州のヤンビー・サウンドの鑛床である。アイヤン・ノツプの埋藏量は一三、五〇〇萬噸と推定せられ、ヤンビー・サウンドの方は一一、七〇〇萬噸と推定されてゐる。兩鑛床共に鑛の品位良く、ヤンビー・サウンド附近即ちクラーン島

第二十表 濠洲鐵鋼生産高

年 度	銑鐵(千噸)	鋼塊及鋼(千噸)
一九三三年	三五〇	三七五
一九三四年	四三〇	四六一
一九三五年	五七二	六一五
一九三六年	六六八	七一七
一九三七年	六六四	八〇五

備考 「南洋鑛産資源」南洋協會發行ページ五七七より

第十九表 濠洲推定鐵鑛埋藏量

州 別	埋藏量(百萬噸)
西オーストラリア	一五〇・八五
タスマニア	一〇〇・〇〇
クイーンズランド	七五
南オーストラリア	一六五・〇〇
ニューサウスウェールズ	五三・〇〇
合 計	四六九・六〇

備考 「南洋鑛産資源」財團法人南洋協會發行ページ五七六より

鐵鑛の分析によれば次の通りである。

鐵	六六・四八	硫 黄	〇・〇七三
珪 酸	四・一六	磷	〇・〇六四

次に濠洲の鐵鋼生産額を見れば第二十表に現れたるが如くである。

(五) 水産業

濠洲は前項に述べた如く、牧畜業は盛んである關係上肉類は極めて豊富であつて價格も又低廉である。従つて住民は魚肉を殆んど必要としてゐない。以上の理由かあらぬか濠洲人は水産業に力を入れる者少く唯木曜島と西濠洲のブルームに於て少數の住民は眞珠業に従事してゐるに過ぎない。

第二十一表

外南洋根據の邦人眞珠貝漁業者

地方別	従業員		邦人漁業者	邦人船數	備考
	船數	員數			
木曜島	三五四	三五四			外人船主下に乗組員として採取業に従事す
ダーウィン	五二	五二			濠洲に歸化する村松次郎は漁船三隻を經營す
ブルーム	一九八	一九八			外人船主下に乗組員として採取業に従事す
コック	二〇	二〇			濠洲に歸化する村松次郎は漁船一隻を經營す
ドボ	四七	四七			邦船乗組員三十六名の他セレベス貿易社従業員十一名
ホロ	一一	一一			
ブートン	一一	一一			ブートン眞珠株式会社經營に依る眞珠養殖年額十二萬圓
計	六九四	六九四	一五	一九	

備考 南洋水産協會發行の第五十七號三頁より

第二十二表

濠洲及東方諸島邦人水産業

地域	濠洲及東方諸島					企業主體	資本金	業務	漁船	従業員	事業場	生産額
	斐洲	ビスマル	ニューカ	トンガタ	フィジー							
斐洲	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	七〇,〇〇〇	螺貝採取	ナシ	木曜島	三五四人	木曜島	1,100,000
ビスマル	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	100,000	螺貝採取	ナシ	木曜島	一四六	木曜島	100,000
ニューカ	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	100,000	螺貝採取	ナシ	木曜島	二〇五	木曜島	100,000
トンガタ	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	100,000	螺貝採取	ナシ	木曜島	七〇五	木曜島	100,000
フィジー	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	100,000	螺貝採取	ナシ	木曜島	七〇五	木曜島	100,000
計	被採	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	貝及魚族	700,000	螺貝採取	ナシ	木曜島	3,540	木曜島	11,100,000

備考 南洋水産第七十七號一〇頁

併しこの眞珠業は世界的に知られた事業となつてゐる。有色人種を排斥する濠洲もこの水産業保護の爲止むを得ず木曜島とブルームに日本人の漁夫の上陸を許してゐる。目下木曜島には邦人漁夫は數百人ゐるが其の數は前掲第二十一表に示す如くである。

尙邦人水産業従業員數竝に其の生産額を見れば次に示す第二十二表の如くである。

第二十三表
に現れたる數字は濠洲に於ける眞珠貝漁業に雇傭されたる在住邦人に關する調査表である。

第二十三表

濠洲眞珠貝漁業(外人經營)に雇
備されてゐる在住邦人調査表 (△減)

地名	過去	現在	比較増減	本年外人經營船
木曜島	三三〇名	一五〇名	△	四〇
グーリン	一四六	一三〇	△	二六
ブルーム	二六〇	一七〇	△	五四
計	七三六	四五〇	△	一二〇

備考 現在の数は推定なり

最近七箇年に於て眞珠
漁業に従事する爲濠洲
に渡航したる邦人数

年別	員数
昭和九年	八八名
昭和十年	七八名
昭和十一年	二一一名
昭和十二年	二〇一名
昭和十三年	八七
昭和十四年	六六
昭和十五年	四〇
計	七六七

備考 南洋水産より

(六) 工業

濠洲の工業即ち毛織工業、硝子工業、陶器製造業及紡績業等の輕工業並に重工業は印度並にカナダの場合と同様に前世界大戦中に勃興したものである。従つて戦後各國の産業復興により濠洲はこれと競争しなければならぬ事になつたが、濠洲の生産費は國際水準より遙かに群を抜いて居た爲、資源の豊富にも拘らず可なりな痛手を受けたのであつた。そこで政府は保護關稅を施し漸く其餘命を保つたのである。濠洲の全工場總數は約二萬五千であるが、五〇人以上の従業者を持つ工場は僅かに七・三%に過ぎない現狀である。工場

の所在地を生産額より見れば、ニューサウスウェルスとビクトリアの兩州が七・六%を占めてゐるが、前者は重工業並に化學工業が多く、後者は紡績業、衣類工業が多く全濠洲の約半にあつてゐる。又製糖業はクインズランドが殆んど獨占した形になつてゐる。

第四章 交通

濠洲の交通は大體四つに分類する事が出來得、即ち道路、鐵道、船舶及航空であるが、土地が廣大なる爲と中央部に沙漠がある關係上、濠洲全體から見れば未だ充分に發達したとは云へないのである。

(一) 陸運

道路は各都市を結ぶ主要幹線は約三五、〇〇〇哩に上つて居て自動車の利用が多く、一九四一年一月一日現在の登録臺數を見れば、其の數は八五八、九〇五臺に達して居る。内米國製自動車は乗客車四五五、八一七で、バスは二、〇〇〇臺、トラックは一九八、六二三となつて居る。

濠洲の鐵道は國有と私設とよりなり、國有鐵道は一九三七年六月現在に於て二七、〇九四哩に上

り、私設鐵道は八〇三哩に達して居る。以上の鐵道軌幅は區々に互り統一を缺いて居る。即ちクイ
ンズランド鐵道は三呎六吋の狹軌であり、ニューサウスウェルス鐵道は標準軌道の四呎八吋半であ
つて、シドニー市を中心として各方面に走つて居り、メルボルンを中心として走るヴィクトリア鐵
道は五呎三吋の廣軌となつて居る。南濠洲鐵道は以上の三軌道を併用してゐる。この外五七八哩の
電車と一三哩のケーブルとがある。

(二) 海 運

一九三九年六月末現在に於ける濠洲在籍船舶數は二百九十隻で、この噸數は四二五、二一〇噸と
なつてゐるが、これを詳細に見れば第二十四表に示す如くである。

(三) 空 輸

濠洲に於ける一九四一年一月末現在の定期航空は次の十三社によつてなされて居る。即ち(一)ク
ワンタス・エンパイア・エアウェイズ會社は同年の經營線路は總距離一〇、四一六浬に及び使用機は
「シヨート・エンパイア」飛行艇「デハヴィランド」八六型である。(二)オーストラリアン・ナシヨナ
ル・エアウェイズ會社は一九四〇年末現在に於ける經營線路は總距離六、四八九浬にて使用機は四彙

第二十四表

船 主 名	隻 數	總噸數	船 主 名	隻 數	總噸數
Adelaide Steam Tug Co.	4	887	Coast Steamships, Ltd.	5	2,559
Albany Tug Co.	1	273	Colonial Sugar Refining Co., Ltd.	3	11,969
Angelina, Frederick R. and Others	1	141	Commonwealth of Australia	6	8,298
Antiochy, Ltd.	1	411	Commonwealth oil Refiners, Ltd.	1	420
Australian-Oriental Line, Ltd.	2	8,648	Crauford, E.S.	18	14,790
Australian Steamship Proprietary Ltd. Bay Steamers, Ltd.	18	42,995	Crauch, James, Pty., Ltd.	1	159
Bellambi Coal Co., Ltd.	1	1,412	Daley J. & J.	1	128
Brisbane Tug & S.S. Co., Ltd.	1	956	Engel, G.A., & Sons, Ltd.	1	119
British Imperial Oil Co., Ltd.	3	1,388	Fenwick, J., & Co., Pty., Ltd.	9	2,017
Broken Hill Proprietary Co., Ltd.	1	118	Freighters, Pty., Ltd.	1	481
Brown, J. & A., & Abermain Seaham Collieries, Ltd.	8	39,189	Fricker, R., & Co., Ltd.	4	556
Burke, John, Ltd.	2	2,194	Gaze, A.H., C.B.E.	4	23,201
Burns, Philip & Co., Ltd.	5	4,590	Geelong Harbour Trust Commis- sioners	1	125
Cairns Harbour Board	13	46,914	Harbour Land & Transport Co., pty., Ltd.	1	525
Cam & Sons Pty., Ltd.	1	1,054	Huddart, Parker, Ltd.	12	40,760
Carpenter, Frederick	10	2,339	Interstate Steamship Pty., Ltd.	2	6,715
Carpenter, W.R., & Co., Ltd.	1	158	Kauri Timber Co., Ltd.	1	207
Carpenter, W.R., & Oversea Ship- ping Ltd.	4	1,315	Lancey, H.R., Shipping Co., Ltd.	1	446
	3	17,167	Landseer, Laurence H.	1	152
			Lee J.S., & Sons	1	145

船主名	隻数	總噸数	船主名	隻数	總噸数
Lavers pacific plantations proprietary, Ld.	1	238	Shell Company of Australia	3	1,466
Mackenzie & petersen, Ld.	2	217	Shell Company of New Zealand, Ld.	2	1,717
McLarty, R.C.N.	2	355	Simms, Hector R., & Others	1	101
Melbourne Harbour Trust Commissioners	11	7,421	Simms, Ivan Lawrence	1	168
Melbourne Steamship Co., Ld.	7	22,682	Simms, Wm. G., & others	1	152
Miller, A.L.	5	2,529	South Australian Harbours Board	6	2,447
Miller, R.W. & Co., Pty., Ld.	3	3,227	Spencers Gulf Transport Co.	1	215
Murrell, A.A.	1	292	Swan River Shipping Co.	1	306
Nelson & Robertson proprietary, Ld.	1	909	Tasmanian Steamers proprietary, Ld.	2	7,328
New South Wales, Government of	21	9,856	Tilley, Alf. E., & Co.	2	668
New Castle & Hunter River Steamship Co., Ld.	5	5,943	Townsville Harbour Board	2	582
Nobel proprietary, Ld.	2	514	Turnbull, Martin & Co.	5	41,452
Patrick James, & Co.	4	6,798	Victorian Government, The	3	2,088
Philp Island & Westernport Shipping Co.	1	309	Victorian Lighterage Proprietary Ld.	2	256
Port philp Sea pilots	2	1,386	Wallace Tugs, Proprietary, Ld.	1	195
Port Stephens Steamships, Ld.	1	513	Wallarah coal Co., Ld.	2	2,088
Quarries, Pty., Ld.	1	540	Waratah Tug & Salvage Co., Proprietary Ld.	7	2,398
Queensland, Government of	9	6,451	Western Australia, Government of	3	9,298
Red Funnel Trawlers, Pty., Ld.	5	1,390	Western District, Timber Co., Proprietary, Ld.	1	206
Rich & Smith, Ld.	1	105	William & Co., Pty., Ld.	4	1,003
			Yorke Shipping Proprietary Ld.	1	225
			計	290	425,210

「デ・ハヴァイランド」八六、双發「デ・ハヴァイランド・ドラゴン・ラビッド」機及「ダグラス」DC三、同DC二等である。(三)エアラインズ・オブ・オブ・オーストラリア會社は總距離三、三八三籽の線を経営し使用機は「スチンソン」機「ダグラス」DC三、「スチンソン」二一A及D・H「ドラゴン」機等である。(四)マクロバートソン・ミラー會社は一九四〇年末現在に於ては諸線(總距離四、六五九籽)を經營し、使用機は「デ・ハヴァイランド」八六、「デ・ハヴァイランド・ドラゴン」双發「ロッキード・エレクトラ」等である。(五)ギニー・エアウエイズ會社は一九四〇年末現在は總距離四、〇七六籽を經營し、使用機は「ロッキード・エレクトラ」「フォード」三發、「エンカース」G三一、同G三四等である。(六)カーペンター會社は一九四〇年末現在に於ける航空路は濠洲—ニュー・ギニア間を運航して居て、使用機は四發附「デ・ハヴァイランド」八六を使用して居る。(七)アンセット・エアウエイズ會社の一九四〇年末現在の總距離は三、〇六〇籽であつて使用機は「エアスピード・エンヅオイ」、「エアスピード・クーリア」、「ロッキード・エレクトラ」等である。(八)アダストラ・エアウエイズ會社の總距離(一九四〇年末現在)は三三八籽で、使用機は「デ・ハヴァイランド・ドラゴンフライ」及「ワコ」である。(九)ヴァイクトリアン・アンド・インターステート・エアウエイズ會社は一九四〇年末現

在に於ける總距離は三六二籽で、使用機は「マイルス・マッリン」である。(一〇)エアクラット會社の一九四〇年末現在に於ける總距離一、四七六籽で、使用機は「デ・ハッイランド・ドラゴン」及「ワコ」等である。(一一)エアラインズ會社の經營する總距離(一九四〇年末現在)は一、三〇八籽で、使用機は「デ・ハッイランド・ドラゴン」及「スチンソン」である。(一二)ノース・ウエスタン・エアラインズ會社の一九四〇年末現在に於ける總距離は五二八籽で、使用機は「デ・ハッイランド・ドラゴンフライ」である。最後の(一三)のバトラー・エア・トランスポート會社の一九四〇年末現在の總距離は一、一六八籽で、使用機は「デ・ハッイランド・ドラゴン」である。

濠洲は國內の外に國際航空も發達し英國、蘭印、新西蘭及米國の「パン・アメリカン・エアウエーズ」會社の桑港オークラン間の南太平洋 第二十五表 貿易總額 (單位千磅)
航空路と連絡して米國經由英國との 航空連絡を可能たらしめて居る。

第五章 貿易

輸入總額	貿易總額 (單位千磅)			
	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
九二,八三五	一〇六,七七六	一一三,三三三	一三九,三三〇	一四〇,〇〇〇
一一二,九八八	一三〇,〇五〇	一四六,一一五	一六〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇
二〇,八三三	二五,八〇〇	二九,九四八	三九,三三〇	四〇,〇〇〇
輸出總額	二八,二七八	三三,七八三	三九,三三〇	四〇,〇〇〇
輸出超過	一〇,一五五	一三,七七八	一三,三三〇	一三,〇〇〇

濠洲は天然資源に恵まれて居る國であるが、人口及勞働賃銀の關係上製造工業はあまり發達してゐない、従つてこの國は原料輸出國である。一九三八年の貿易高は二四四、〇〇〇、〇〇〇磅である。

第二十六表 (イ) 輸出對手國 (單位千磅)

國名	一九三四年	一九三五年	一九三六年
英國	六三,九五五	六三,五七〇	六八,二五二
日本	一三,九〇六	一一〇,九六六	一七,六六一
米國	二五,三三三	二七,五八八	九三,四四四
白蘭地	七,四七二	六,〇八一	七,三六一
佛蘭西	六,五七七	四,七三三	六,四三三
新西蘭	二,九六二	三,六二七	四,三九七
獨逸	九,四三九	一,七三六	二,三六八
加奈陀	一,三三六	一,四四四	一,三三三
蘭印	一,四九六	一,一八六	一,一八一
支那	九,五五五	二,四七三	一,一三三
和蘭	六,二一〇	九,二八八	一〇,一〇一
印度	四,六〇〇	七,八六六	九,七三三
伊太利	—	九,九六六	六,八八九
滿洲	—	一,六一四	三,〇〇〇
瑞典	二,五二二	二,四二二	二,六六五

(ロ) 輸出品之部 (單位千磅)

品名	一九三六年	一九三七年
羊毛	五三,三四五	六二,五三九
小麥	一四,〇五〇	一八,七六五
小麥粉	四,五一九	五,五九六
バター	九,八三三	七,七二六
チーズ	三,三七七	三,八四四
ミルク及クリーム	七,二三三	八,五二二
鶏卵	九,一八八	九,七四四
鶏肉	八,七四六	一〇,三三〇
生皮類	五,六五〇	七,三〇八
生乾・纖維詰果實	四,八二〇	五,〇五五
糖	二,一七五	二,八八七
草	二,二二二	二,四八九
動物脂肪	二,〇九九	二,五〇〇
石炭	六,六三二	八,一〇〇
鉛	二,七六六	三,〇〇〇
鉛	六,四四一	八,九三三
錫	三,八三七	五,〇七三
鐵鋼材及同製品	九,〇九五	一三,二二二
木材	一〇〇	一,八三三
鐵鋼材及同製品	六,二四四	九,九〇〇
木材	八,六六七	九,五三三

備考 三七—三八年明細不詳

(二) 輸入

濠洲の輸入は殆んど總ての工業製品に互つて居るが、其の中でも自動車及同部分品は最も多く、約七五三萬磅（一九三八年）、次は石油の約五六六萬磅で、綿布、電氣機械等の順となつて居る。其の國別竝に商品別の輸入高を見れば、第二十八表及第二十九表に示す如くである。

(三) 日濠貿易

第三十表

日濠貿易に於ける 濠太刺利よりの輸入

(單位千圓)

品名	單位	數量			價		
		昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
羊毛	百斤	五二,四九	五七,一三六	七三,一九五	五,四三六	六四,八八三	四二,八三三
皮類	同	四六,六三三	四二,五五一	七三,一三六	二,三二六	二,六四五	五,〇三三
小麥	同	四七,三〇〇	五〇,三三五	一六,七九〇	三,〇〇〇	四,〇〇八	一五,六二二
牛油	同	六六,六九	一五,六七三	四五,六八九	一一七	三〇一	一,一四七
牛肉(生)	同	〇	三三,〇六三	二六,六六五	〇	七一九	七四四
貝殼	同	〇	八,一五五	一四,九五五	〇	五六〇	一,五七三
其他	同	〇	五七,〇六	六,三四一	一六,九三五	五〇〇	五七〇
輸入總額	同	一〇,〇〇〇	一〇,八三七	一四,七三三	一六,九三五	二八,八三三	一六,三三三

我國の地位は最近に至り低下したが、事變前迄は我國への輸出が多く大體第二位に位して居た。併し濠洲への輸入として蘭印と三位を争つ

てゐた。最近に至つては日本の買付が減少した爲、第三十表に現れた如く順位は下つた。尙我が國よりの主なる輸出を商品別に見れば、第三十一表の如くである。

第三十一表

品名	單位	數量			價		
		昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年
人造絹織物	平方碼	四四,〇三八	四〇,六五七	四二,三四四	一八,五七五	一七,三〇三	一六,六六七
綿織物	平方碼	七三,七三三	六四,三九四	五二,五六九	一五,一一八	一五,〇七〇	一三,五三七
生絲	百斤	七,二二七	七,八四〇	八,六三〇	九,三八一	六,四六二	八,一三三
罐詰食品	同	四三,三九八	四六,七七五	五五,一四三	二,五三四	二,四六四	二,四八九
陶磁器	同	—	—	—	—	—	—
玩磁具	同	—	—	—	—	—	—
絹織物	平方碼	一,五三三	一,四〇四	三,二二八	一,四五七	一,九三三	二,六六四
人造絹絲	百斤	一〇,三七三	五,四七八	四,七四三	一,〇一一	五,五〇〇	五,一八
綿織物	百斤	五,七五	五,九一	五,九八	九,五七	八,六一	九,〇四
硝子及同製品	千打	—	—	—	—	—	—
紙類	百斤	四,一〇一	三,〇八三	五,七二五	八,六一	一,五六七	一,四一三
鈕、類	千哥	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	七,三三	五,一六	六,六九
身邊裝飾用品	同	—	—	—	—	—	—

輸 出 總 額	其 他	打 紐 眞 田 紐 類	硫 黃	藍 靛	薄 荷 油	機 械 及 同 部 分 品	ア ラ ツ シ ユ	除 蟲 菊	絹 製 手 巾	製 帽 用 眞 田	植 物 油 (<small>芳香性ノ ノラ除ク</small>)	魚 油 及 獸 油	樽 メ リ ヤ ス 製 品	鐵 製 品	帽 子 及 帽 體	木 材	ラ ム プ 及 同 部 分 品	綿 織 絲	寒 天
		百 斤	百 斤	百 斤	百 斤			百 斤	千 打	千 打	百 斤	百 斤	千 打	百 斤	千 打		百 斤	百 斤	百 斤
1,112								56	56	240	320	556	66	66	66			337	112
1,007		218	164	164	3			53	186	836	613	777	45	631	4			286	1,007
676			909	286	45			219	61	739	804	1,192	40	732	68			175	676
444	613	1,412	0	0	15			63	67	92	97	139	144	157	195	227	254	291	444
295	618	1,264	533	654	779			97	42	189	154	141	175	337	321	355	383	565	295
187	4100	1,264	533	1,000	286			73	110	249	239	254	140	154	211	283	565	235	187

四四

第六章 財政及社會

濠洲聯邦の財政は世界大戰後急激に悪化し一九三一年には其の極に達したが、一九三三年に至り時の統一濠洲黨政府の努力により破局状態にあつた濠洲財政も歳出入の均衡を得、以來上向線を辿るに至つた。

(一) 貨幣及金融

濠洲の貨幣制度は母國の制度に範を採り、且倫敦磅の一定値にリンクして居る。即ち倫敦磅一〇〇に對し濠洲磅は一二五の割合となつてゐる。

濠洲紙幣は中央銀行たるコンモンウェルス銀行が之を發行し、大藏省が同行本店内に發行局を置いてゐる。従つて紙幣面には大藏省發行同行總裁連署と云ふ事になつてゐる。紙幣は一〇〇、五〇、二〇、一〇、五、一磅及一〇志の七種がある。銀貨は五志、二志、一志、六片、三片よりなり、銅貨は一片、半片の二種と成つて居る。

濠洲の紙幣通貨及流通高は一九四一年六月末現在に於ては次の通りである。

四五

發行總額	七一、三四五、〇〇〇磅
流通額	六八、一一九、〇〇〇磅
金 融	

濠洲に於ける銀行は殆んど全部が濠洲銀行及英系銀行であつて、外國銀行としては我が横濱正金銀行と Comptori National d'Escompte de Paris の二行である。
濠洲に於ける銀行は次の如くである。

一、Bank of New South Wales

設 立	一八七八年
資本金	六、〇〇〇、〇〇〇磅
支店數	九〇六

二、Commercial Bankig Co., of Sydney Ltd.,

設 立	一八三四年
資本金	四、七三九、〇〇〇磅

支店數 四四七

三、National Bank of Australia Ltd.,

設 立	一八六七年
資本金	五、〇〇〇、〇〇〇磅
支店數	三三八

四、Commercial Bank of Australia Ltd.,

設 立	一八六六年
資本金	四、一一七、〇〇〇磅
支店數	三六九

五、Queensland National Bank Ltd.,

設 立	一八七二年
資本金	一、七五〇、〇〇〇磅
支店數	一五一

六、Bank of Adelaide

設立 一八六五年

資本金 一、二五〇、〇〇〇磅

支店數 一一六

七、Commonwealth Bank of Australia

設立 一九一一年

資本金 六、〇〇〇、〇〇〇磅

英國銀行

一、Bank of Australia

設立 一八三四年

資本金 四、五〇〇、〇〇〇磅

二、Union Bank of Australia Ltd.

設立 一八三七年

資本金 四、〇〇〇、〇〇〇磅

三、English Scottish and Australia Bank, Ltd.

設立 一八五二年

資本金 三、〇〇〇、〇〇〇磅

外國銀行

一、橫濱正金銀行

設立 一九一五年

資本金 一億圓

二、Comptoir National d'Escompt de Paris

設立 一八七八年

資本金 四億弗

(二) 文化及教育

濠洲の宗教は其の住民の殆んどすべてが英國人によつて占められてゐる關係上、完全にキリスト

教である。このキリスト教の中でも新教が最も勢力を占めて居るが天主教も少なくない、而し濠洲人は概して宗教的でなく教會も又振つて居ない。

濠洲の教育は普通教育も高等教育も共に普及され、特に高等教育の如きは特権階級がない關係上一般民衆に開放されてゐて、州の奨學金制度により教育の機會均等主義が極めて行届いてゐる。教育制度は米國式が採用され各州政府の管轄に屬し各州によつて行政監督權を握つてゐる。初等教育は義務的であつて六歳から十四歳まで小學校教育を受け、其の他は中等教育機關、高等教育機關、專門教育機關と云ふやうに大別され、各州には一校づゝ州立大學が設けられてゐる。特に西オーストラリア州の如きは小學校から大學に至るまでは授業料を徴收しない事にしてゐる。

ニュージーランド

第一章 自然及位置

(一) 面積

ニュージーランドは濠洲大陸の南東に位し、濠洲を離るゝ事約千二百哩に及んでゐる。主なる島嶼は北島、南島、ステュワート島、チャタム群島等である。總面積は一〇三、九三四平方哩となつてゐるが、これは屬領諸島を含む總面積である。主なる島嶼の面積は次に示す如くである。

北島	四四、二八一平方哩	ステュワート島	六七〇平方哩
南島	五八、〇九二平方哩	チャタム群島	三七二平方哩

(二) 氣候

ニュージーランドは南緯三四度―四八度に位し、細長き島嶼である關係上海洋の直接的影響の下にあり概して温暖の氣候である。北島は高地のほかは全く霜雪を見る事なく極北部は亞熱帶的氣候

に屬し、東岸は寒流の影響を受ける爲に緯度の割合に温度が低く氣候の變化も多い、又西岸は西風が吹く爲東岸よりも濕潤にして雨量が比較的多い、今試にニュージーランドの温度を見ると第一表の如くである。

第一表 氣候表

	オークランド	ウェリントン	ダネデン
平均温度(華)	五八・〇	五四・八	五一・四
雨量(インチ)	四四・九	四一・一	三六・八
日照時間數	二、〇一五	二、〇四七	一、六九五

備考 ウェリントン市はオークランド市より四百哩南に位しダネデン市はウェリントン市より四百哩南に位す

第二章 歴史及住民

(一) 歴史

ニュージーランドの先住民マオリ族は今より約六、七百年前に西太平洋の一地方、今のフイジ島方面から渡航し來つたものであると云はれてゐるが、歐洲人の此の島嶼を發見したのは一六四二年に蘭領東印度會社の船長アベル・タスマンが最初である。其の後和蘭はジャバ方面の仕事に急しく忘れてゐるうちに英人航海家ゼームス・クックは一七六九年に發見し、上陸してキングジョージ第

三世の名に依つて英國の占有する事を宣言したのである。爾來クックは五回に互りニュージーランドを訪問し今日の基礎樹立に大いに力を盡したのである。

(二) 住民

ニュージーランド向の移民の始めは、一八三九年の終りと一八四〇年の始めにニュージーランド移民會社の手によつて英本國を出帆してウェリントンに上陸したのが最初であつて、其の後追々白人の渡航が増加して行つた。特に一八六〇年の南島のオタゴ地方に於ける金鑛發見により移民の渡航に拍車がかげられ、一八七〇年には人口二十四萬八千四百人となり、一八八〇年には二倍の四十八萬四千八百六十四人と成つた。かくするうちに先住民族と白人種との間に相争が始り、不幸にして先住民族の敗北となり先住民族が絶滅に瀕する迄に殺害されたのである。最初白人がこの島を發見した時にはマオリ族は大體六、七萬人居住してゐたと云はれるが、白人種との相争により残存者は當時四萬人内外となつた。今日一九三九年十二月三十一日現在のニュージーランドの人口

第二表

都 市 別	人 口
オークランド	二二一、五〇〇
ウェリントン	一五七、九〇〇
クライストチヨーク	一三五、四〇〇
ダネデン	八二、八〇〇

はマオリ族九〇、二八七人を含め一、六四一、六一六人となつて居る。尙主要都市の人口は第二表の如くである。

第三章 産 業

(一) 農 業

ニュージーランドは氣候は温和で雨量も適度である關係上農業及畜産業に適してゐる。特に土地は肥沃してゐる上に人口は少なく農家は廣大なる耕作地を所有し、トラクター、ハーヴェスター等の機械を用ひて農業に従事してゐる。尙ニュージーランドの地表面積の三分の二は農業及牧畜業に好適し、この七割までは綿羊養殖に用ひられてゐる。

ニュージーランドの農産物の主なるものはバター、チーズ、羊毛、羊肉、麥、燕麥、裸麥、玉蜀黍、レンシード、ホップ、煙草、玉葱、フラックス、果實等である。一九三九年度の輸出高はチーズの五、七〇五、八二四磅、バターの一五、八三三、八四三磅、羊毛の一二、八九九、二二八磅、冷凍羊肉の八、七六八、二三六磅等である。

ニュージーランドに於ける農業に使用せる開墾地を作物別に示せば第三表に示す如くである。

第三表 ニュージーランド開墾地作物別表 (一九三九年度)

作物及根菜類	面積 (エーカー)
穀物	五三四、〇二五
蔬菜及根菜類	六〇七、七八三
休作地	一四〇、九二五
牧草、クローバー及飼料(乾草用)	六六五、六三七
同 刈込せざる地	一六、七八三、六一二
果樹及葡萄園	二二、一七五
パシヨンフルーツベイン	一八八
ハツプス園	六〇〇
苗圃、野菜園その他	八、六九六
油桐園	四、四〇三
家庭用庭園及遊園地	八一、四八二
農園	八七二、四二二
開 耕 地	一九、七二一、九四九
未 開 地	二二、一七九、三三三
總 使 用 面 積	四二、九〇一、二七二

備考 New Zealand Facts and Figure

第四表 ニュージーランドに於ける農民經營地 (一九三九年)

耕作地 (エーカー)	所有者數	パーセンテージ
一—一〇	一一、二〇四	一三・〇三
一〇—一五〇	一四、七四五	一七・一五
五〇—一〇〇	一二、五七四	一四・六三
一〇〇—二〇〇	一六、四三六	一九・一二
二〇〇—三二〇	九、七五三	一一・三四
三二〇—六四〇	一〇、二一七	一一・八八
六四〇—一、〇〇〇	四、一三八	四・八一
一、〇〇〇—五、〇〇〇	五、八七〇	六・八三
五、〇〇〇—一〇、〇〇〇	五四九	〇・六四
一〇、〇〇〇—二〇、〇〇〇	二八九	〇・三四
二〇、〇〇〇—五〇、〇〇〇	一四三	〇・一七
五〇、〇〇〇以上	五五	〇・〇六

備考 New Zealand Facts and Figure

第五表

搾乳機	/	二八、九七〇
旋轉機		五五、六六五
刈込機		一〇、〇六四
農業用トラクター		九、六三九
電氣モートル		五一、三四四
内燃機關		二二、六〇一
計		一七八、二八三

備考 New Zealand Facts and Figure. 1940.

次に大小農民の經營地を示せば第四表に示す如くである。一九三九年に於けるニュージーランドの農民の使用しつゝある機械、器具を見れば第五表の如くである。

(二) 牧畜業

以上の第四表を見ても明かなる如くニュージーランドの農民は如何に農業を機械化し、農業労働者の不足を補ひ、より以上の能率をあげて増産しつゝあるかを窺はれるのである。

一九三九年一月現在の畜牛の数は四、五六四、九〇〇頭であつて、馬は二七五、〇〇〇頭、豚は六八三、〇〇〇頭となつてゐる。家畜の最高、羊は三二、三七八、七七四頭の多數に上つてゐる。

(三) 林業

ニュージーランドの森林の面積は全面積の一・九一パーセント即ち一、二六〇萬エーカーに過ぎず、これがためニュージーランドは材木の不足を來したるため、政府も急ぎ法律を設けて森林保護に務めて居る現状である。この國の樹木は約八十六種あるが、その中木材として使用出來得るもの

はカウリ、トタラ、リム、カイカタア、マタイ、ビーチ、ラタ、タワ等の數種に過ぎないのである。従つてニュージーランドは毎年總輸入額の一〇パーセント程度の木材輸入を見てゐる。

(四) 鑛業

ニュージーランドの鑛物は金、銀、鐵、タングステン、マンガン、水銀、石炭等である。

金は南島西海岸のホキチカ附近と同島ワカチブ湖附近及北島のチームスに産し、ニュージーランドに於ける最も重要な鑛業の一つである。この國の金鑛を大別して山金、砂金、ドレッヂンクによる砂金の三種に別け其の産額は次の第六表の如くである。

第六表 金塊の産額 (一九三七年)

	數 (オンス)	價 (磅)	鑛山従業員數	鑛山及淺海船數
山金採鑛	△ 五三、四三三	九、〇〇三	一、三三八	七
砂金採鑛	二、七一一	一、〇〇三	二、一六八	二、七五三
ドレッヂンク	五〇、二〇一	一、〇〇三	五二	三
計	一〇六、三四五	一、〇〇三	三、五二八	二、七五三

備考 New Zealand Official Year Book 1939

△銀を含む

銀は主として北島ハウラキ鑛山より銀鑛を採掘されてゐる、其の産額は大體一箇年に四四三、八〇〇オンス内外であつて、この大部分は輸出されてゐる。

ニュージーランドの鐵は極め

て廣大なる褐鐵鑛の鑛床が南島ネルソン地方のゴールドン灣に臨むバラバラ及オネカカ附近に産し、埋藏鑛量は六千萬噸乃至七千萬噸と推定されてゐるが、最近の調査報告では悲觀材料が多云はれてゐる。一九二一年にオネカカ鐵鋼會社が熔鑛爐を建設した。一九三七年に政府は鐵鋼業法を通過せしめ、鐵鋼及同製品を生産する國營鐵鋼所を建設する事となつた。

タングステンの産地は南方オタゴ地方ワカチプ湖の西グレノキイ附近と南島マルバラ地方のワカマリナ谷方面に産し、鑛石の大部分は輸出されてゐる。

マンガンはオタワ、ワイロア灣島、ブルア灣、マンガバイ、オトンガ、ワイヘケ島及タイエリ・マウス等で發見されてゐるが、ここ數年は産出を見ない。

ニュージールランドの石炭、即ち無煙炭、亞炭は南島西海岸及南東海岸並に北島オークランド地方に産出し其の埋藏量は第七表に示す如くである。

(五) 水産業

第七表
ニュージールランド
石炭埋藏量
(一九三七年)

種類別	數量 (單位百萬噸)
無煙炭	僅少
半煙青炭	六〇
濕青炭	二〇六
褐炭	二四七
亞炭	一五〇
計	六六三

備考 「南洋鑛産資源」南洋協會發行

ニュージールランド近海の水産資源は濠洲のそれと同一で、魚族の繁殖にまかせて居る状態であるから極めて豊富である。其の上に漁場は處女の状態に屬してゐる。今試みに主要なる魚族を擧げれば鯛、鰯、鱈、鯉、鰯、鱒、鯨、鯨、鮎、鱈、タラキヒ、グロバー、ブリューコット、蝦、牡蠣等其の他多種類生存してゐる。ニュージールランドの漁業方法はトロール及手繰網を使用して行はれてゐるが、企業形態も極めて小規模であつて操業海域も殆んど近海に限られてゐる。従つて將來のこの事業は希望視されてゐる。尙主なる漁獲海域を見れば次の第八表の如くである。

第八表

種類	海域
鯛(スナッパ)	北島全部
鰯(カード)	北島から南島南迄
鰯(ツール)	北島中部より南島中部東海岸
白魚	南島西海岸と北島ワイカト川口
グロバー	南島北部より南部東海岸
比目魚	北島北より西海岸、南島北部、中部東海岸
	南北島全部

備考 川瀬勇著の「ニュージールランド」のページ二〇四より

一箇年間の漁獲總額は大體三五〇、〇〇〇磅内外である。

(六) 工業

ニュージールランドの工業はあまり發達してゐなく、初期工業とも見るべきものはバター、チーズ、ガゼイン、コンデンスミルク、粉乳、冷凍肉及羊毛等である。最近は水力電氣が利用され始めたので勞働力さへ

あれば將來は可なり發達すべきであると思慮されて居る。
 最近の統計は不明であるが、試みに一九三六年迄の冷凍羊肉輸出量を見れば次に示す第九表の如くである。

第九表

年 度	羊 肉	ラム 羊肉
一九三二年	二、三四三、一四八	七、五七四、一四七
一九三三年	二、三五四、一八四	九、〇五六、〇七一
一九三四年	二、〇〇〇、八八四	八、七一九、三〇一
一九三五年	二、〇八八、八八一	九、三八三、〇八一
一九三六年	一、八一〇、〇五二	八、三六五、五四三

第十表

	羊 肉	ラム 肉
ニュージーランド	六〇・七	五二・〇
オーストラリア	二四・七	二七・三
アルゼンチン	八・八	一五・一
チリ	五・二	二・四
ウルガイ	〇・四	二・六
他 國	〇・二	〇・六
計	一〇〇%	一〇〇%

備考 「南の理想郷ニュージーランド」のページ二二二より

尚英本國へ輸入される冷凍羊肉をニュージーランド
 と他國との比較を見れば第十表に示された如くである。

羊毛工業は全羊毛産額の二・三パーセントを使用し、主なる製品はシャツ、下着類、毛布、膝掛、毛絲、フランクネル及少量の洋服地等である。工場数は十二工場(一九三七年)にして其れに従事する

人員は二、七九二人と成つてゐる。

第十一表 ニュージールランド製造工業 (一九三六―三七年)

業 種 別	工場数	従業員数	生産額	業 種 別	工場数	従業員数	生産額
製粉工業	五〇	七四三	一、三四八、八五五	石炭、セメント工業	六〇	九五三	八三六、〇四八
果實ヂャム工業	一六	四二七	三、七四九	煉瓦、陶器製造工業	六三	九〇九	四二九、九八一
醸造工業	四九	一、〇三六	二、四〇七、七〇〇	製 鐘 工 業	一三八	一、五五四	一、〇三三、四七三
飲料水工業	一六	五五四	五、七五〇、八二	鐵 工 業	四四	八八三	四二七、七三六
ソースピツクル工業	一六	五三四	三、三三三、四四	機械修理工業	二〇六	三、七二七	二、〇三三、三二〇
石鹼ソーソク工業	三三	五五三	五、〇七二、二八	印 刷 業	一八一	七、七〇三	四、〇〇、〇〇〇
製 服 工 業	三三	一、一七二	三、六三三、一〇七	農業用機械工業	五四	一、一五二	一、〇二一、一七三
メリヤス工業	三三	一、三二六	五、六四、九八〇	馬車自動車體製造業	一三八	八、八八五	三、六八九、五二九
製靴工業	七	三、〇一八	一、八四一、八八	タンニン工業	一四	五七二	六、二四一、二二
フラツクス工業	三三	五、四〇〇	一、七九、三三三	造船業	二七	七二六	二、〇〇〇、〇〇〇
製材工業	四七	八、〇〇五	四、四四、九三三	家具製造業	一三八	二、〇七	一、三〇〇、〇〇〇
ガス工業	四六	一、八六八	一、一九九、一〇〇	過機酸石灰他肥料工業	八	七五三	一、四九八、三三
電気工業	九八	四、三三〇	八、五六三、九七〇	計	四九四	四七、七二八	一、五〇、〇〇〇

備考 川瀬勇氏發行の「ニュージーランド」ページ二一九より

煉乳工業は大いに發達し世界有数の乳製品輸出國と稱せられてゐる。この他バター及チーズ製造も盛んで、一九三七年製産額はバターに於ては一四六、八五一噸であつてチーズは八四、九七一噸と成つて居る。次にガゼイン製造工業及製菓工業等があるがこれを詳細に見れば前の第十一表の如くである。

第四章 交通

ニュージーランドに於ける道路は極めて發達し自動車道路は限なく敷設され、其の延長六百數十萬キロに上り従つて自動車の利用が多く、この點鐵道に及ぼす影響も又大である。國有鐵道は一九三八年三月末日の調査によると、私設鐵道一九八哩を含めて三、五二一哩を數へてゐる。海運は四面海に圍まれた國だけに非常に盛んである。一九三七年度に於ける各港入港船舶は六三四隻と出港船舶は六二〇隻に達してゐる有様である。航空輸送も又發達してゐる國內は無論國外との連絡も盛んである。

第五章 貿易

ニュージーランドは原料生産國である關係上、工業製品は少く主として農畜産物である。一九三九年の輸出額を見ると五八、〇〇八、七一七磅となつてゐて、輸入額は四九、三八七、一八三磅となつて居る。今詳細に見れば次の第十二表及第十三表の如くである。

第六章 財政及社會

ニュージーランドの財政は外債（一九三五年度二八〇、五八一、二一七磅）の關係上可なりな重責を背負つてゐる。この主なる負債の原因は過去の歐洲戦争の戦時負債即ち六一、二〇〇、〇〇〇磅と歸還將士に對する報酬等による負債四、一〇〇、〇

第十二表
ニュージーランド輸出額
(一九三九年十二月三十一日)

合計	五八、〇〇八、七一七
再輸品	六〇一、〇三七
其他	三、四四〇、七五五
金	一、六二八、五二六
カウリ樹脂	一一二、六五〇
脂肪	四五六、五二七
羊毛	一一、六六五、九〇九
羊皮	一、四五九、七〇二
兔皮	二六二、九〇四
皮革(牛)	七八一、一二三
林産物	四七五、四一三
ソーセイジ	六九八、三四八
冷凍肉	一一、八七九、七五〇
バター	一六、一三一、九〇六
チーズ	五、八四九、一九一

備考 New Zealand in a Nutshell Pg. 27

第十三表

輸

入

額

(一九三九年十二月三十一日)

六四

砂	八五三、六四一	反	一、七一一、五九一	無線電信、ラヂオ	八三五、八七九
糖	八八〇、三一五	絹人絹布	七七一、一〇八	木	二三、六〇四、〇〇三
茶	三九八、七七一	毛織物	二、五一三、四一七	印刷紙	一、〇四〇、二九〇
ウイスキー	三三七、二五六	石油	二八三、七五六	紙、書籍類	七五五、九四六
シガレット	六九二、六九三	重油	六四一、五九四	肥料	二、一三七、八一〇
タバコ	一、二〇七、九〇一	石炭	七一〇、二七一	自動車	六一五、八五七
洋服(既成品)	三九四、七五六	鐵製品	六七〇、五一五	自動車タイヤ	一一〇、七六四
靴	五三一、八三九	金物類	七四二、二五六	其他	二、二二二、二三一
カーペット	五二九、九七六	電氣器具	四、一九二、七四七	合計	四九、三八七、一八三
織物					

備考 New Zealand in a Nutshell Pg. 29

〇〇磅である。

(一) 貨幣及金融

ニュージーランドの貨幣制度は濠洲と同様に母國の制度に範を採り倫敦磅と一定値にリンクしてゐる。即ち倫敦磅一〇〇に對しニュージーランド磅一二五でリンクしてゐる。ニュージーランドに於ける銀行を見れば大多數は英本國及濠洲の出資せるものであつて、ニュージーランド系は中央準

備銀行(セントラル・レザヴ・バンク)とナショナル・バンク・オブ・ニュージーランドの二行である。其の他は主として英國及濠洲系の銀行である。

ニュージーランド
銀行一覽表

銀行名	支拂資本額
バンク・オブ・ニュージーランド	2,578,125
ナショナル・バンク・オブ・ニュージーランド	2,000,000
バンク・オブ・ニュースウス・ウエールズ	8,780,000
バンク・オブ・オーストラリア	4,500,000
ユニオン・バンク・オブ・オーストラリア	4,000,000
コンマーシャル・バンク・オブ・オーストラリア	2,000,090

備考 川瀬勇氏著「ニュージーランド」二九九頁

(二) 社會

ニュージーランドに於ける階級關係は白人種相互の間に於ては純粹に封建的殘存物を有せず、資本主義的支配關係にあるも、古くから労働者の政治的勢力が強く特に一九三五年末以來労働黨政府が成立してゐる。この國の社會施設は最もよく行届いてゐる種々なる施設が施されてゐる。以上の外宗教はキリスト教が流布され唯一の宗教である。教育の普及は極めてよく普及され、初等科、中等科、専門部並に大學と云ふ様に教育機關が整つてゐる。

115
953

神
戸
商
工
會
議
所

印刷所	合資會社 明輝社
發行人	神戶商工會議所 福本義亮
編輯人	神戶商工會議所 外事課
印刷	昭和十七年六月十一日

